

わい化栽培の樹形比較

研究のねらい

本県のわい化栽培においては、基本樹形として細がた紡錘形（スレンダースピンドル）が普及されているが、その他にも外国で開発された樹形としてフリースピンドル、ピラー、コルドン、マーシャー、パルメットなどがある。そこで、これらの樹形の本県での栽培特性をみるために比較検討する。

研究の成果

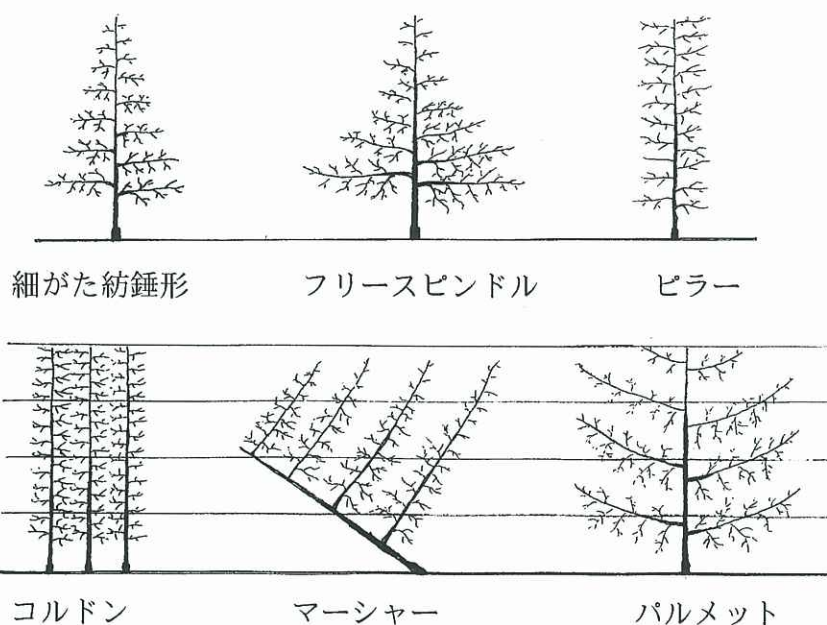
栽植距離の広いフリースピンドルを除いては、栽植6年目で木は目標の大きさとなった。各樹形とも栽植3年目には着果がみられ、6年目から大幅に増加し、9年目までの累積収量はコルドンで最も多く、次いで細がた紡錘形、ピラーの順であり、フリースピンドルが最も劣った。果実の大きさは細がた紡錘形、フリースピンドルが勝り、コルドンが最も小さかった。

良品果生産はパルメットとフリースピンドルで勝り、コルドンで劣った。また果実の糖度は細がた紡錘形、パルメット及びフリースピンドルで高く、コルドンで低かった。

総合的にみて、本県の樹形としては細がた紡錘形が適性であった。

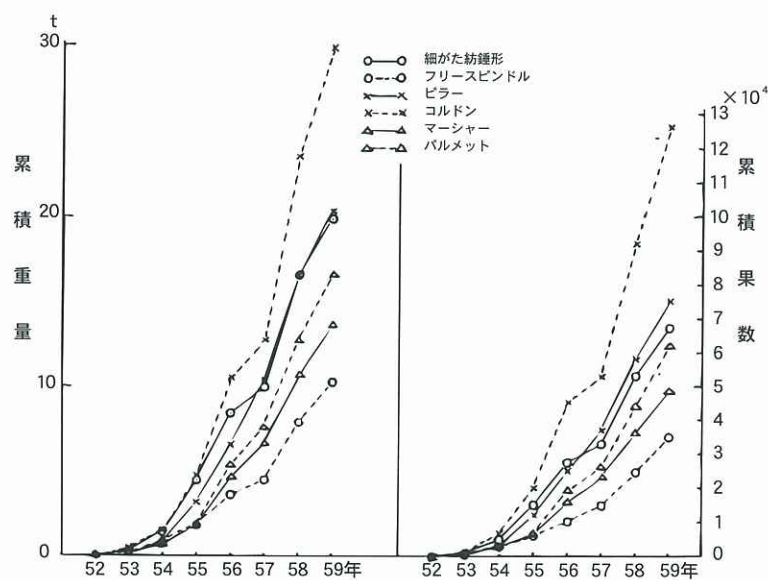
第1表 各樹形の栽植距離（‘ふじ’ /M.26）

樹形名	栽植距離	栽植本数/10a	樹形名	栽植距離	栽植本数/10a
細がた紡錘形	4×2(m)	125	コルドン	2.5 × 0.75(m)	533
フリースピンドル	5×3	67	マーシャー	3 × 2.5	134
ピラー	4×1	250	パルメット	3 × 3	111

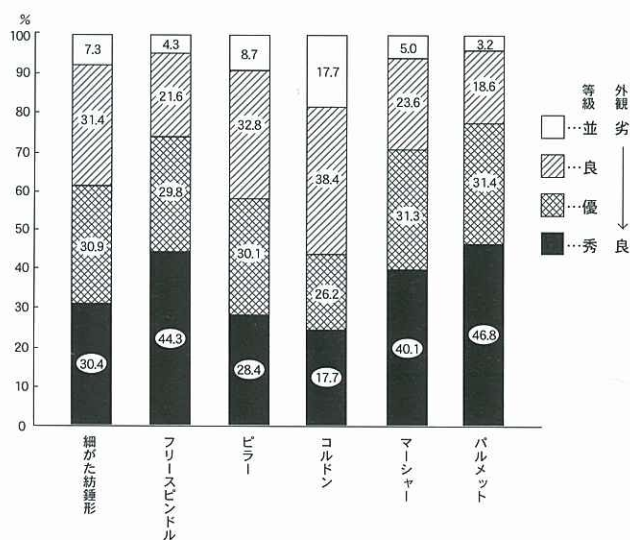


第1図 樹形

主要な試験データ



第2図 樹形別累積収量 (10a当たり)



第3図 樹形別果実等級割合
(昭和56～59年)

第2表 果実の大きさ及び糖度

樹形	1果平均重量(g)	屈折計示度(%)
細がた紡錘形	294	14.8
フリースピンドル	291	14.7
ピラー	270	14.4
コルドン	236	14.0
マーシャー	279	14.5
パルメット	267	14.8

1果平均重量は昭和53～59年の平均
屈折計示度は昭和57～59年の平均

発表資料

斎藤貞昭 (1985). わい化樹の樹形別収量及び果実品質の比較. 園芸学要旨 昭和60年 東北支部: 13-14.